

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは5号館		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2025年 2月 3日		2025年 2月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の強みとして、多職種連携によるチーム体制が挙げられる。 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、各専門職の配置により、多角的な支援の実現が可能となっている。 今後は、各専門職間の連携をさらに強化し、より効果的な支援体制の構築を目指している。	- 各職種（セラピスト 保育士 管理者等）を各チームに配置し児童の支援方針を多角的に検討 - 昼礼・終礼でチーム別ミーティングを実施し、情報共有を促進 - 療育の評価シートは全員の視点を反映するため、ミーティング時間内でチームで作成	チームビルディングの強化 - 職種間の相互理解を深めるためのワークショップ - スタッフ間のコミュニケーション促進イベントの実施
2	インリアルアプローチ、感覚統合理論などの専門的なアプローチを活用した言語療育に特化したサービスを提供しており、これが当事業所の特徴となっている。これらの専門的アプローチの技術向上と、新たな療育手法(集団活動)・評価内容の共有方法(標準化された検査の項目)の導入も検討していく必要がある。	- 専門職員を中心とした、児童の言動から見る評価分析の機会をミーティング内で実施 - 専門職を中心に療育中のアプローチを検討。さらにその場でゴール設定を行い、日々の療育で観察するべきポイントの共有を実施	スタッフの専門知識向上プログラムの実施 - 言語療育とインリアルアプローチに関する定期的な研修 - 正常発達に関する勉強会の開催
3	「こどもの想いに寄り添い言の葉を育む」という明確な理念に基づき、安心・安全を確保しながら子どもの自主性を重視した支援を展開している。この理念をより具体的な支援実践に落とし込み、スタッフ全員で共有・実践していくことを目指している。	- 子どもの発達段階に応じた個別支援計画の作成と定期的な見直し - 子どもの興味・関心を活かした遊びの環境設定 - 安全に配慮しながら、子どもが自ら選択・挑戦できる機会の提供 - 日々の支援内容をスタッフ間で共有し、支援方針の統一を図るためのミーティングの実施	スタッフの時間確保を目的とした業務環境への配慮 - 業務効率化とコミュニケーション体制の確立 - 固定ミーティング時間の設定と効果的な運用 - チーム内ディスカッションの定例化 - 書類作成の標準化とシステム化

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【地域交流の少なさや情報周知度が低い】 事業所にて保護者との申し送りは行っているが、事業所で取り組んでいる避難訓練の様子やSNS(インスタグラム等)の運用情報に関しては、言及している保護者の方はまばらな状態	情報開示・周知の方法が未確立 - 情報発信に関する担当者が明確になっていない - SNSやブログなどの更新が不定期 - 地域との連携を図る機会が少ない - 保護者への情報提供方法が限定的 - 広報活動の計画が具体化されていない	情報周知への工夫 - 情報発信担当者の選定と役割の明確化 - 定期的なSNS更新スケジュールの策定 - 地域イベントへの参加や協力体制の構築 - 保護者向け定期便(案：ことのは便り)の発行 - 年間広報計画の立案と実施
2	【多職種連携の充実】 異なる職種に関して、お互いの理解度に差があり、率直な質問が出にくい事がある その為、課題解決に時間を要したり、周知に至らない為、解決策が習慣化しない事がある	多職種連携における情報共有と共通理解の差 - 職種間での役割理解が不十分で、自主的な行動に繋がっていない - 業務の優先順位付けにより、職種間での対話時間が十分に確保できていない - 専門性の違いから、率直な意見交換や質問が少ない状況がある	多職種連携における情報の質を向上 - 職種間の相互理解を深めるためのワークショップの開催 - 固定ミーティング時間の設定と効果的な運用による対話時間の確保 - チーム内ディスカッションの定例化による意見交換の活性化
3	【チーム体制の未熟さ】 他職種を取り入れたチームではあるが、会話量の少なさから、療育提供内容にバラツキが見られる 児童の支援に関する共通した評価シートや評価方法の欠如している状態	チームで動くという習慣化の未熟さ - スタッフ間の関係性に課題があり、チームが二分化している傾向がある - 主体的に行動するスタッフが少なく、指示待ちの姿勢が見られる - 児童との関わりで不安を感じるスタッフがあり、積極的な支援行動に躊躇がある	チームアプローチという意識の強化 - スタッフ間のコミュニケーション促進イベントの実施によるチーム統合 - 書類作成の標準化とシステム化による業務効率の向上 - チーム制による多職種連携の強化と相互サポート体制の構築